

平日常中の吉田地区商店街▶

吉田地区で開催されたイベント「トコマルシェ」(上段)

▼分水地区で開催されたイベント「だんだん市」(下段)



まちのにぎわいづくりに向けて 踏み出す一歩。

今号では、燕市のまちの現状や課題、これまでに燕・吉田・分水地区のエリアごとに実施してきた取組事例や今後の展望、イベント・補助金情報などを紹介します。

社会問題ともいえる 市街地の空洞化

人通りもまばらで空き家・空き店舗が多く存在する、いわゆる「シャッター商店街」。全国の地方都市にとって、郊外型大型店の進出や少子高齢化、市民のライフスタイルの変化による市街地の空洞化は、大きな社会問題になっています。

燕市も例外ではありません。新幹線や高速道路、近隣市町村への交通アクセスが良い点など生活に便利な利点を持つている反面、その利便性が市街地を訪れる人の減少につながっている状況があります。商店街に関わる若者の流出や人口減少による後継者不足。それによる、空き家・空き店舗の増加、商業機能の低

地域のコミュニティと 社会の持続力

まちのにぎわいづくりの取り組みを考えていくなかで大切なことは、観光地のように単に訪れる人が増えるだけではダメだということです。重

要なポイントは、エリアに訪れる人だけでなく、住んでいる地域住民にとっても居心地が良い場所になければいけないという点です。地域の現状や課題、住民のニーズを自治会、まちづくり団体、活動をサポートする企業、行政などが共有しながら、それぞれの取り組みを行っていく必要があります。これらの取り組みのなかで生まれるコミュニティの形成により、地域全体の協力体制が構築され、持続可能な社会を築く基盤になります。

にぎわいづくりの活動を 応援

市では、『燕市都市計画マスタープラン』において、市街地エリアを「都市機能の集

まちの現状と課題

下などによってまちのにぎわいが失われつつあります。商業、住宅、駅、学校などが集まる地域の都市機能をこのまま失わせることはできません。そのために、にぎわいづくりに向けた取り組みが重要な鍵となります。



▲燕地区で開催されたイベント「まんまるしえ」

積により、持続可能な都市の実現を図る地域」と位置付けています。そのため、長期にわたり暮らしやすいまちにするため、まちのにぎわいを生み出す活動に対して支援を行っています。

現在、燕・吉田・分水の各地区でそれぞれの課題解決に向けて動き出しています。燕地区の「クロスロード宮町」、まちなか再開発プロジェクト、「吉田地区の「ヨシダリノベーションプロジェクト」、分水地区の「だんだん市」。これらのプロジェクトを中心となって実行している皆さんに、取り組みの内容や今後の展望について話を伺いました。

※燕市都市計画マスタープランとは？

地域における実現すべき具体的な都市の将来像と、まちづくりに関わる施策の体系的な指針を定めるもので、「市町村の都市計画に関する基本的な指針」のことを言います。